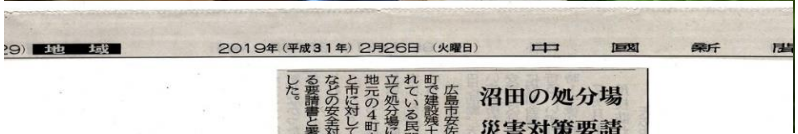
県と市に沼田土砂処分場における安全措置を要請

２月２２日金曜日、広島県と広島市に対し、細坂町内会、雲願寺町内会、大原町内会、若葉台町内会の４町内会連名で恒久的な安全対策と住民への説明会開催を求め要請書と署名（県知事宛に 1,949 名、広島市長宛に 1,905 名）を提出しました。

広島県からは、森林水産局森林保全課治山担当監 満足高至氏、農林水産局森林保全課保安林グループ主査 清水孝洋氏、森林水産局森林保全課保安林グループ事業調整員 川本政和氏、西部農林水産事務所林務第１課森林管理係事業調整員 江邑幸一氏、と面会し要請書を読み上げ各町内会からも実情を訴え、要請書と１，９４９名分の署名を手渡しし、森林保全課の満足高至・治山担当監から「内容を整理して回答する、後日意見交換会の様なものを設けたい」との返事を頂きました。広島市からは、環境局施設部部長 古田典之氏、環境局施設部埋立地整備担当部長 橋國雅文氏、環境局施設部恵下埋立地建設事務所所長 米田泰治氏と面会し要請書を読み上げ各町内会からも実情を訴え、要請書と１,９０５名分の署名を手渡しし、施設部 橋國雅文・埋立地整備担当部長から「中身を吟味し状況をきちんと説明したい。県とも調整し対応したい」との返事を頂きました。当日は、報道各社、中国新聞社、朝日新聞社、中国放送、広島ホームテレビから取材を受け、慣れない中充実した緊張の時間が過ぎました。その時の事が２月２２日中国新聞２９面、地域版の記事になりました。



29 地域 2019年（平成31年）2月26日（火曜日） 中国新聞

沼田の処分場 災害対策要請

県・市に４町内会

広島市安佐南区沼田町で建設残土を受け入れている民間の埋め立て処分場に関連し、地元の4町内会が県と市に対して、災害時などの安全対策を求める要請書と署名を提出しました。

処分場の容量は約126万立方メートルで、県が2013年に開発を許可した。細坂町内会の川本政義会長（64）たち6人が22日、県庁を訪れ、近くを流れる細坂川流域で過去に発生した土砂崩れや水害、西日本豪雨での鉄砲水を挙げ、河川改修などを求めた。森林保全課の満足高至・治山担当監は「内容を整理して回答する」と述べた。

市は擁壁基準を超える鉛などが検出された建設中の恵下埋め立て処分場（佐伯区）から残土を搬入、細坂川の水質検査などを基に「安全」とする。住民側は同日、あらためて説明を求めた。施設部の橋國雅文・埋立地整備担当部長は「中身を吟味し、状況をきちんと説明したい」と答えた。（川口裕介）